

(様式2) 【発表要旨】

<発表者> 指導区名：始良・伊佐指導区 氏名：永野 昌伸

1 発表テーマ

始良・伊佐地域における「未来の森林づくり推進プラン」の目標達成に向けた取組について

2 テーマの趣旨・目的 <取組課題選定の背景含む>

「始良・伊佐地域未来の森林（もり）づくり推進プラン」は前期5箇年計画として、令和元年11月に制定され、森林・林業に関する地域課題の解決に向け、「木材生産の推進」、「再造林の推進」、「間伐の推進」、「林業労働力の確保・育成」について様々な取組を行ってきた。

前期プランの取組内容及び成果を踏まえ、後期プランの目標達成に向けた様々な取組を進めていく必要がある。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

① 現状

○始良・伊佐管内の推進プランの現状

項目		R元	R2	R3	R4	R5
木材生産量	目標	342,197 m ³	350,240 m ³	359,839 m ³	370,993 m ³	382,157 m ³
	実績	↑ 365,990 m ³	↓ 338,657 m ³	↑ 403,166 m ³	↑ 387,764 m ³	集計中
再造林面積	目標	203ha	278ha	288ha	300ha	311ha
	実績	↓ 145ha	↓ 175ha	↓ 213ha	↓ 262ha	↑ 342ha
再造林率	目標	53%	70%	70%	70%	70%
	実績	38%	37%	42%	55%	集計中
間伐面積	目標	710ha	685ha	660ha	635ha	610ha
	実績	↓ 688ha	↑ 687ha	↓ 647ha	↓ 583ha	↓ 426ha

- ・木材生産量については、年ごとに増減はあるが目標達成。
- ・再造林面積については、年々増加しており令和5年度は目標達成。
- ・間伐面積については、間伐対象齢級面積の減や間伐から主伐へ移行してきたことから、年々減少。

② 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

- ・地域未来の森林づくり推進会議の開催による関係情報共有及び意識の醸成
- ・再造林推進に向けた新たな技術を活用した省力化・効率化研修会の開催
- ・苗木生産技術向上講座の開催及び新規苗木生産者の確保
(R5先進地研修・生産技術研修：2回開催、
生産事業者登録 R5：3名，R2：2名，2社，R元：1名，1社)
- ・森林経営プランナー地域実践研修等による森林経営プランナーの育成
(R5：1名，R4：6名，R3：3名，R2：1名，R元：5名)
- ・下刈抑制実証試験及び下刈省力化実証試験の継続実施（2事例）

(①伊佐市 (R元～) , ②始良市 (R3～))

- ・一貫作業システムの取組 (R5 : 100ha, R4 : 118ha, R3 : 41ha)
- ・林福連携の取組 (1事例)
(霧島市 : 令和4年度～)
- ・再造林等普及啓発用マグネットシートの配布 (19団体)
- ・「木材利用促進の日」要望活動や「森林のまつり」による木材利用PR活動
⇒木材生産量 : 増加 (R元年度 : 366千m³ → R4年度 : 388千m³) ↗
⇒再造林面積 : 増加 (R元年度 : 145ha → R5年度 : 342ha) ↗
⇒苗木植栽本数 : 増加 (R元年度 : 325千本 → R5年度 : 832千本) ↗
⇒間伐面積 : 減少 (R元年度 : 688ha → R5年度 : 426ha) ↘

③ 課題

森林資源の循環利用を推進するため、再造林率の向上、苗木供給体制の整備、林業労働力の確保が必要。

○始良・伊佐管内の推進プランの目標値

項目	前期プラン ←					→ 後期プラン				
	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
再造林面積 (ha)	203	278	288	300	311	324	325	327	328	330
再造林率 (%)	53	70	70	70	70	67	67	67	67	67
林業労働力 (人)	311	311	326	326	341	338	339	349	350	362
苗木必要数 (千本)	508	695	720	750	778	783	783	785	785	788

4 今後取り組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

ア 再造林推進に向けた取組

- ・地域未来の森林づくり推進会議や造林・保育コスト低減に向けた研修会の開催
- ・一貫作業システムのさらなる推進

イ 苗木供給体制の整備

- ・新規生産者の掘り起こしや苗木生産技術向上講座の継続開催、林福連携の拡充による苗木の確保

ウ 林業労働力の確保に向けた取組

- ・造林・下刈作業の効率化手法の普及
- ・事業体間の連携強化、事業体における協力事業体の確保
- ・将来の林業就業者確保に向けた小・中学校や高校での森林環境教育等の取り組み
- ・かごしま林業大学校修了生の就業後のフォローアップ

② 理由

森林資源の循環利用の推進を図るため、引き続き、再造林に対する事業体等の意識の醸成や連携、苗木供給体制の整備、林業労働力の確保を図る必要がある。

③ 期待する成果 (目標数値等を定めた場合は、その内容を含む)

人工林伐採跡地における再造林率の向上